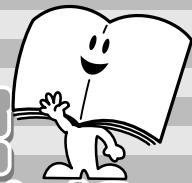


# 甲賀市子ども読書活動推進プロジェクト

## 甲賀市図書館 だより



### 5いびりりん その4

このコーナーでは図書館と本について紹介していきます。

市内の図書館では、子どもたちが積極的に読書活動を行うためには、子どもたち自身が本の楽しさを知ることが大切で、そこから読書が広がっていくと考えています。

このたび、「甲賀市子ども読書活動推進プロジェクト」として、小学生用に「どのほんよもうかな?写真①」、中学生用に「100の発見写真②」という2冊の本の案内誌を作成し、市内の小中学校の全生徒に配布することになりました。



②A5版

①A4版

子どもたちが本に親しみ、自分なりの本の出会いを経験し、有意義な夏休みを過ごしてほしいものです。

市内各図書館では、希望される方にも配布させていただきます。お気軽に声をかけてください。

#### 問い合わせ

水口図書館	☎ 63-7400 FAX 63-4737
土山図書館	☎ 66-1056 FAX 66-1067
甲賀図書情報館	☎ 88-7246 FAX 88-7005
甲南図書交流館	☎ 86-1504 FAX 86-1505
信楽図書館	☎ 82-0320 FAX 82-3921

日之出水道機器株式会社様より土山図書館蔵書に、300,000円をご寄付いただきました。大切にに使わせていただきます。

## みんなの窓

# 差別はいかにして崩壊するのか

### 甲賀市人権教育連続セミナー

6月10日(土)碧水ホールで、甲賀市人権教育連続セミナー(第1回)を開催しました。講師は、関西大学の上杉 聡さん。会場には定員の200名を超える参加者が熱心に耳を傾けていました。テーマは「差別はいかにして崩壊するのか」で、部落差別が歴史の中でどのように強められ、ゆるみ、そして崩壊していくのかという展望を示され、今なお残る部落問題解決のために自分たちがしなければならぬ課題をあらためて認識させられました。以下、その日の講演の中から一部を引用しました。

「今後差別はどうなっていくのか。今の差別はどんなものなのか。一つは、かつての悪い制度の名残という面がある。そして、その制度を今の慣行が支えている。」

「どうして、部落差別がこんなにしつこいのか。それは、たかだか数百年前の制度の名残というだけではなく、この社会の下に、まるで岩盤のように悪く古いものが横たわっていて、差別を支えているからである。」

「これでは、差別はなくならないのではないかと思いがちだが、すでに江戸時代の中頃には差別がゆるみ始めている。そして、いずれは差別はなくなるはずである。なぜなら、部落差別というのは、人間が歴史のある地点で人間の力によって

作り上げたものだからである。歴史上人間が作り上げたものを人間が歴史の上でなくせないはずはない。」

「そうすれば、私たちは何もしくなくていいと考えないでほしい。差別を残す力となくす力が現在せめぎあっている。差別をなくす力には、地域での啓発活動や学校での同和教育、自治体が行うさまざまな施策がある。もし、こちらを強めるならばあと数十年で差別はなくなるだろう。ただし、少しの努力でなくなるとは考えないで欲しい。しかし、絶え間なく努力をしていけば、次の時代には差別のゆるい時代を手渡すことができる。今ある差別をなくすことができるのは、私たち自身なのである。」

認め合おう

個性は立派な 宝物

あいの土山福祉会  
エーデル土山



講演される上杉さん

問い合わせ 人権教育課  
☎ 86-8024 FAX 86-8380